

授業科目名 / Course title	フランス語翻訳研究A		
担当教員 / Instructor	高野 優, 伊藤 愛		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期曜限 / Period	2022年度 前期 / Spr.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	小説を翻訳するための基礎を学ぶ		
	この授業は、高野優と伊藤愛が担当します。高野の担当回は、第1回から第3回、第5回から第8回の7回。伊藤の担当回は、第4回、第9回から第15回の8回です。		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の語学力と読解力のレベルアップ。翻訳は原文をきちんと語学的に理解し、また作品を深く理解していないとできません。したがって、よい翻訳をつくるのが逆に、フランス語の語学力と読解力のレベルアップにつながります。 2. 翻訳を通じて、フランス語と日本語のちがいに気づき、それによってまたフランス語と日本語に対する理解を深めます。 3. 原文の内容を語学的、文脈的にきちんと理解したうえで、日本語として読みやすく、自然な訳文をつくるのが目標です。 		
授業概要 / Course description	フランス語の小説、とりわけ3人称の小説を日本語に訳すのであれば、視点の問題と時制の問題を避けて通ることはできません。そこで、短文や小説の抜粋をテキストに、前期では視点の問題について考えます。また、最後の6回は原文数ページほどの短編小説を訳します。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>第1回：翻訳について考える 第2回：言葉遊びを翻訳する 第3回：代名詞を使わないで訳す 第4回：代名詞を使わないで訳す & 視点を考える 第5回：日本の小説を読んで、代名詞と視点について考える 第6回：登場人物の視点で訳す (1) 第7回：登場人物の視点で訳す (2) 第8回：文体練習 第9回：語り手の視点で訳す 第10回：短篇小説を訳す (1) 辞書の訳語にとらわれずに訳す 第11回：短篇小説を訳す (2) 核になる情報を見つける 第12回：短篇小説を訳す (3) 登場人物のキャラや気持ちを考える 第13回：短篇小説を訳す (4) 会話を上手に訳す 第14回：短篇小説を訳す (5) 文脈で意味を考える 第15回：短篇小説を訳す (6) 日本語の作品として完成させる</p>		
準備学習・履修上の注意 / Notices	授業は皆さんの訳文にコメントすることが中心になりますので、課題を提出していただくことが前提となります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 オリジナル・テキストをメールに添付して配布します。 【参考書】 授業のなかで、お話しします。		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 担当教員ふたりで相談のうえ、課題の提出など、授業への参加の積極性、それから提出課題に対する取り組み方、その出来あがりなどを考慮して、総合的に評価します。 【評価基準】 授業への参加 (50%) と提出課題 (50%) により評価します。		
備考 / Notes	授業は録画・録音しますので、どうしてもリアルタイムで出席できない場合は、課題を提出したうえで、白百合メールで配信される録画・録音で受講してください。提出された課題は添削してお返しします (原則はリアルタイム出席です)。 皆さんのなかから、将来、翻訳家になる方が出てくると出てくるとよいと思っています。またそうなるように、基礎を教えこみます。		

授業科目名 / Course title	フランス語翻訳研究 B		
担当教員 / Instructor	高野 優, 伊藤 愛		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期曜限 / Period	2022年度 後期 / Aut.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle			
小説を翻訳するための基礎を学ぶ			
この授業は、高野優と伊藤愛が担当します。高野の担当回は、第1回、第3回、第5回、第6回、第8回から第10回、伊藤の担当回は、第2回、第4回、第7回、第11回から第15回の8回です。			
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives			
<p>1. フランス語の語学力と読解力のレベルアップ。翻訳は原文をきちんと語学的に理解し、また作品を深く理解していないとできません。したがって、よい翻訳をつくるのが逆に、フランス語の語学力と読解力のレベルアップにつながります。</p> <p>2. 翻訳を通じて、フランス語と日本語のちがいに気づき、それによってまたフランス語と日本語に対する理解を深めます。</p> <p>3. 原文の内容を語学的、文脈的にきちんと理解したうえで、日本語として読みやすく、自然な訳文をつくるのが目標です。</p>			
授業概要 / Course description			
フランス語の小説、とりわけ3人称の小説を日本語に訳すのであれば、視点の問題と時制の問題を避けて通ることはできません。そこで、短文や小説の抜粋をテキストに、後期では時制の問題について考えます。また、最後の4回は原文数ページほどの短編小説を訳します。			
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>第1回：現在形 第2回：単純未来 第3回：複合過去・大過去・半過去と単純過去 第4回：半過去 第5回：大過去と半過去 第6回：日本の小説を読んで、時制について考える 第7回：「小説の過去」を訳す 第8回：複合過去が単純過去に変わる時 第9回：直接話法 第10回：間接話法 第11回：自由間接話法 第12回：短篇小説を訳す (1) 仏語の発想で読み、日本語の発想で書く 第13回：短篇小説を訳す (2) ニュアンスは状況からつける 第14回：短篇小説を訳す (3) 訳文の日本語から誤訳を発見する 第15回：短篇小説を訳す (4) 読者に読まれることを意識する</p>			
準備学習・履修上の注意 / Notices	授業は皆さんの訳文にコメントすることが中心になりますので、課題を提出していただくことが前提となります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>【教科書】 オリジナル・テキストをメールに添付して配布します。</p> <p>【参考書】 授業のなかで、お話しします。</p>		
成績評価の方法 / Evaluation	<p>【評価方法】 担当教員ふたりで相談のうえ、課題の提出など、授業への参加の積極性、それから提出課題に対する取り組み方、その出来あがりなどを考慮して、総合的に評価します。</p> <p>【評価基準】 授業への参加 (50%) と課題提出 (50%) により評価します</p>		
備考 / Notes	<p>授業は録画・録音しますので、どうしてもリアルタイムで出席できない場合は、課題を提出したうえで、白百合メールで配信される録画・録音で受講してください。提出された課題は添削してお返しします (原則はリアルタイム出席です)。</p> <p>皆さんのなかから、将来、翻訳家になる方が出てくると出てくるとよいと思っています。またそうなるように、基礎を教えこみます。</p> <p>【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】 【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】</p>		

授業科目名 / Course title	フランス語教育研究B		
担当教員 / Instructor	大塚 陽子		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期曜限 / Period	2022年度 後期 / Aut.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	児童対象フランス語教室のデザインと実践		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>この授業では、児童（小学生）を対象とする単発型フランス語教室の意義、理想的なあり方と将来性を探ります。児童外国語教育に関する現状の問題点などを整理しながら、児童フランス語教室のあらゆる可能性を検討し、実現可能なプログラムを考案することを目指します。</p> <p>またデザインしたプログラムを実施することがこの授業の達成目標となります。</p> <p>この科目はディプロマポリシーの「学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標」の「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な知識、技能を習得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること」、「社会的な要請を理解し、研究の場において、または実践の場において、専門的な貢献ができること」、「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと」に対応しています。</p>		
授業概要 / Course description	小学生のためのフランス語教室「プチテコ」を開催するために、コースデザイン、指導案作成、教材作成を行います。また教室指導者として必要な技能を習得します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） / Class schedule	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：日本における児童フランス語教育</p> <p>第3回：教室をデザインする：ニーズ・レディネス分析</p> <p>第4回：教室をデザインする：テーマの設定</p> <p>第5回：プログラムを作成する</p> <p>第6回：アクティビティを考案する：歌・クイズ</p> <p>第7回：アクティビティを考案する：ゲーム</p> <p>第8回：アクティビティを考案する：劇</p> <p>第9回：教材の考案：動画・音声教材</p> <p>第10回：教材の考案：アクティビティ用教材</p> <p>第11回：教材の考案：テキスト</p> <p>第12回：教材の作成と試用</p> <p>第13回：指導者のあり方と指導者に必要な技能</p> <p>第14回：評価とフィードバック</p> <p>第15回：まとめ</p>		
準備学習・履修上の注意 / Notices	<p>各回の授業外学習時間（予習・復習）には4時間程度かかると想定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げる文献は事前に読んでおきましょう。 ・ディスカッションやグループワークを多く取り入れます。教室を準備・実施する立場を意識すること、特に主体的に参加する姿勢や責任感を求めます。 ・事前の準備や復習に毎回4時間程度の授業外学習を想定しています。 		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>【教科書】 配布プリントを使用します。</p> <p>【参考書】 中村啓佑、長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』駿河台出版社、1995. 鳥飼玖美子『英語教育の危機』ちくま新書、2018. 泉水浩隆『ことばを教える・ことばを学ぶ』行路社、2018.</p>		
成績評価の方法 / Evaluation	<p>【評価方法】 1) 発表・課題 (30%)、2) ディスカッション・グループワークへの貢献度 (30%)、3) レポート (40%) の割合で評価します。</p> <p>【評価基準】 以下を評価の基準とします。 1) 発表・課題への取り組み：指示内容を正確に理解し、十分な準備を行っているか (35%) 2) ディスカッション・グループワーク：積極的に取り組み自分の意見を述べているか、各自の役割に責任を持ち作業を遂行しているか (35%) 3) レポート：授業の内容を正確に理解し、それに基づき自分の考えを深め論じているか (30%)</p> <p>【課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法】 manaba courseを使用</p>		
備考 / Notes	<p>【討議（ディスカッション、ディベート）を取り入れている】</p> <p>【グループワークを取り入れている】</p> <p>【発表（プレゼンテーション）を取り入れている】</p> <p>【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】</p>		

授業科目名 / Course title	フランス語教育研究C		
担当教員 / Instructor	善本 孝		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期曜限 / Period	2022年度 前期 / Spr.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	外国語教育研究のためのアンケート調査の基本と実践		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>外国語教育研究ではデータの収集方法としてアンケート調査が多く用いられます。質問紙を作成して回答を集めるアンケート調査は誰にでもできる簡単な研究方法に思われますが、実際には質問紙の設計に不備があり、十分な研究結果に結びつかない例をよく見ます。</p> <p>この授業では外国語教育研究のための有効なアンケートの立案・作成・実施・データ処理・分析の方法を学びます。授業の中で実際に質問紙を作成し、学部学生を対象にアンケートを実施することで、今後自分の研究でアンケート調査を行うための基本的な知識と実践のためのスキルを身につけることを目指します。</p> <p>調査結果を共同研究として論文にまとめることで研究論文執筆のスキルを習得することも目指します。</p> <p>この科目はディプロマポリシーの「学生が修了時に身につけておくべき能力=教育目標、学修・研究目標」の「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること」、「社会的な要請を理解し、研究の場において、または実戦の場において、専門的な貢献ができること」、「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと」に対応しています。</p>		
授業概要 / Course description	<p>授業は概ね以下のステップにそって進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 質問紙とは何か、その基本を確認し質問紙作成上の注意点を考えます。 2) 履修者全員で討議しアンケート調査のテーマを決定します。 3) 履修者全員で協力して質問紙を作成します。 4) 質問紙をgoogleフォームを用いたネットアンケートの形式にします。 5) 質問紙とネットによるアンケートを同時に実施。 6) Excelでデータを処理し、全員の討議で調査結果を分析します。 7) 調査結果を共同研究論文として文章にまとめます。 <p>各ステップでは履修者による討議を中心に授業を進めます。</p>		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：質問紙とは何か 第3回：質問紙作成上の注意点 第4回：アンケート調査のテーマを考える (ブレインストーミング) 第5回：テーマに基づくアンケート調査の立案 (討議) 第6回：質問紙の設計 第7回：質問項目の作成 第8回：質問紙のチェックとトライアル 第9回：googleフォームの作成 第10回：アンケート調査の実施 第11回：データの入力と集計 第12回：データの分析と評価 (討議) 第13回：アンケート調査に基づく研究論文作成の基本 第14回：論文の相互評価 (討議) 第15回：まとめと評価 (討議)</p>		
準備学習・履修上の注意 / Notices	履修者全員でアンケートを作成、実施します。共同研究のメンバーとしての自覚を持って履修することを期待します。		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>【教科書】 全員必携の教科書は指定しませんが、今後自分の研究でアンケート調査を実施する予定の人は下記の参考書の購入を進めます。</p> <p>【参考書】 ソルタン・ドルニュイ著、八島智子/竹内理監訳『外国語教育学のための質問紙調査入門』松柏社、2006年 豊田秀樹編著『紙を使わないアンケート調査入門』東京図書、2015年</p>		
成績評価の方法 / Evaluation	<p>【評価方法】 授業とアンケート調査への貢献度 (70%)、分担執筆した論文の完成度 (30%)</p> <p>【評価基準】 授業内の討議に積極的に参加し、アンケート調査の作成・実施・集計・分析での分担作業で共同研究者としての役割をどれだけ果たしているかで貢献度を評価します。論文については、研究論文に相応しい明解な文章で主張が論理的に述べられているかを評価します。</p> <p>【課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法】 提出された論文の添削・講評を行います。</p>		
備考 / Notes	<p>【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】 【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】</p>		

授業科目名 / Course title	フランス文学研究 B		
担当教員 / Instructor	辻川 慶子		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 後期 / Aut.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	文芸事象の歴史——19世紀フランスにおける女性と読書		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>今年度の授業では「文芸事象の歴史」という方法を用いて、19世紀フランスにおける女性と読書について考察したいと思います。「文芸事象の歴史」というのは、文学および文芸事象 (du litteraire) 自体を一つの歴史事象として考える方法論です。19世紀フランスにおいて、文学がどのように生産され、流通し、読まれていたのか。書籍のみならず、新聞・雑誌・ファッション誌などのいかなる媒体で、女性はいかなる読書が勧められ、あるいは実際に読書を行っていたのか。そして社会の中で「文学」はどのような位置を占めていたのか。こうしたジェンダーと読書の問題を、19世紀の新聞・雑誌などの資料、読者が作家に宛てたファンレター、バルザックやモーパッサンなどの文学作品に描かれている読書の場面などを通して読み取りたいと思います。</p> <p>授業は講義や講読形式というよりも、共同研究という形で進めていく予定です。フランス国立図書館の電子図書部門Gallicaの利用方法や19世紀フランスの新聞・雑誌の閲覧方法など、基本的な調査方法をお伝えしますので、それをもとに19世紀に刊行されていた新聞・雑誌について調査し、または各自が選んだ文学作品における読書の表象を分析し、発表をしていただきます。半期だけの授業ですが、19世紀フランスにおける読書の問題が垣間見えればと思います。</p>		
授業概要 / Course description	<p>授業では、文芸事象の歴史という方法論や読書の歴史についての講義を行い、またフランス国立図書館の電子図書部門Gallicaの利用方法、19世紀フランスにおける新聞・雑誌などの閲覧方法などについて説明します。その上で、各自が前もって調査したことを踏まえて、発表形式で授業を進めていきます。各自に調査を分担し、毎回報告をしていただきますので、毎回の入念な準備をお願いします。また、授業の後半では、各自が選んだ文学作品 (バルザック、モーパッサン、ゾラなど) における読書の表象について発表をしていただきます。分析方法などについても授業で説明しますが、自主的に読解と分析を進めていただくと嬉しいです。</p>		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>第1回 導入(1)文芸事象の歴史とは 第2回 導入(2) 19世紀フランスにおける女性と読書 第3回 書物と歴史、読書と歴史(1) 第4回 書物と歴史、読書と歴史(2) 第5回 フランス国立図書館Gallicaにおける19世紀の雑誌調査(1) 第6回 フランス国立図書館Gallicaにおける19世紀の雑誌調査(2) 第7回 フランス国立図書館Gallicaにおける19世紀の雑誌調査(3) 第8回 読書とファンレター(1) 第9回 読書とファンレター(2) 第10回 読書とファンレター(3) 第11回 文学作品における女性と読書 (1) 第12回 文学作品における女性と読書 (2) 第13回 文学作品における女性と読書 (3) 第14回 文学作品における女性と読書 (4) 第15回 まとめと評価</p> <p>*進度は履修者の関心などによって変更することがあります。</p>		
準備学習・履修上の注意 / Notices	<p>授業によっては、各自が手元にパソコンまたはタブレットが必要な場合があります。パソコンの貸出方法など、詳しくは初回に指示をします。また、授業が始まる前にも、ご自分の関心のある作家や作品において、女性と読書についての読解を進めていただくと嬉しく思います。</p>		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>【教科書】 配布プリント</p> <p>【参考書】 Judith Lyon- Caen, Dinah Ribard, L' Historien et la littérature, La Découverte, 2010. Judith Lyon- Caen, La Lecture et la Vie, Les Usages du roman au temps de Balzac, préface d' Alain Corbin, Tallandier, 2006.</p>		
成績評価の方法 / Evaluation	<p>【評価方法】 文献調査と口頭発表 (50%)、期末レポート (50%)</p> <p>【評価基準】 授業への積極的参加、文献調査への取り組み、口頭発表、期末レポートを見て総合的に評価します。</p> <p>【課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法】 授業中のコメントやmanabacourseなどを通じてフィードバックを行います。</p>		
備考 / Notes	<p>【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】 【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】</p>		

授業科目名 / Course title	フランス文学研究C		
担当教員 / Instructor	畠山 香奈		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 前期 / Spr.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle			
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives			
17世紀の劇作家ジャン・ラシーヌの『アンドロマック』を読みます。17世紀に書かれた悲劇作品の精読をとおして、フランスの言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけることを目指します。			
この科目は、「学生が修了時に身につけておくべき能力=教育目標、学修・研究目標」の、「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること」と「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと」に対応しています。			
授業概要 / Course description			
最初の数回で、フランス17世紀の演劇状況について概説します。そののち、初級・中級文法のおさらいをしながら、韻文で書かれた悲劇作品を原文で精読します。テキストの精読にあたって必要な文化的・歴史的背景についても適宜解説していく予定です。各学期末にはレポートを提出し、学習内容の理解を深めます。			
授業計画（授業の形式、スケジュール等） / Class schedule			
第1回：イントロダクション（辞書・参考文献について） 第2回：17世紀演劇について（時代背景） 第3回：17世紀演劇について（舞台事情・役者） 第4回：17世紀演劇について（劇作家） 第5回：テキストの読解と解説① 第6回：テキストの読解と解説② 第7回：テキストの読解と解説③ 第8回：テキストの読解と解説④ 第9回：テキストの読解と解説⑤ 第10回：テキストの読解と解説⑥ 第11回：テキストの読解と解説⑦ 第12回：テキストの読解と解説⑧ 第13回：テキストの読解と解説⑨ 第14回：テキストの読解と解説⑩ 第15回：テキストの読解と解説⑪			
準備学習・履修上の注意 / Notices	テキストを輪読しながら授業を進めます。単語や文法事項など不明な点があれば、仏和辞書だけでなく、仏仏辞書も積極的に引いて、事前に調べておくこと。各回の授業外学習時間（予習・復習）は4時間程度。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 プリントを配布します。 【参考書】 初回の授業で紹介する。		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 授業への参加、学期末レポートにより評価する。 【評価基準】 授業への参加（50%）、学期末レポート（50%） 【課題に対するフィードバックの方法】 学期末レポートにはコメントをつけて返却する。		
備考 / Notes	【授業形式】本授業は、主にmanabafolioを利用した遠隔授業として実施する。 【討議（ディスカッション、ディベート）を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】		

授業科目名 / Course title	フランス文化史研究A		
担当教員 / Instructor	佐藤 クリスチーナ		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 前期 / Spr.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	La guerre froide : Histoire et mémoire (1945-1991) 冷戦 : 歴史と記憶 (1945年~1991年)		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>A partir de 1945, l' Europe et le monde vont se diviser idéologiquement et politiquement en deux blocs. D' un côté les Etats de l' Ouest guidés par les Etats-Unis, une communauté de valeurs caractérisées par la démocratie, les libertés fondamentales et l' économie de marché. De l' autre, les Etats de l' Est guidés par l' URSS, qui doivent se soumettre au modèle soviétique d' une société sans classes dans le cadre d' une économie planifiée, sous la direction du Parti communiste.</p> <p>La confrontation va durer plusieurs décennies et aura des répercussions sur l' Europe et le monde.</p>		
授業概要 / Course description	<p>Ce cours est une réflexion sur l' histoire et la mémoire de la guerre froide ainsi que sur son enseignement en utilisant comme référence des manuels d'histoire du collège et du lycée ainsi que des documentaires et des films.</p> <p>Le cours a lieu en français. Mais des documents en japonais seront distribués, des documentaires ou des films sous-titrés seront visionnés.</p>		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>第1回 : Qu' est-ce que la guerre froide ? 第2回 : Les débuts de la guerre froide (1945-1949) (1) 第3回 : Les débuts de la guerre froide (1945-1949) (2) 第4回 : La naissance d' un ordre international bipolaire 第5回 : Le plan Marshall 第6回 : Les modèles idéologiques (Etats-Unis-URSS) 第7回 : Le « rideau de fer » divise l' Europe 第8回 : Berlin, au cœur de la guerre froide (1948-1949) 第9回 : Le paroxysme de la guerre froide (1949-1963) 第10回 : Berlin : du soulèvement populaire à la construction du Mur (1953-1961) 第11回 : Détente et contestations des blocs (1963-1975) 第12回 : Le retour des tensions (1975-1985) 第13回 : Guerre atomique : guerre interdite ? 第14回 : La fin de la confrontation Est-Ouest (1985-1991) 第15回 : Exposé des étudiantes sur un thème choisi</p>		
準備学習・履修上の注意 / Notices	講義関係資料と映画を教材としフランス語で行います。 学生による研究発表を行います。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 なし 【参考書】 Histoire T-L-ES, Hatier, 2004 Histoire/Geschichte, Klett/Nathan, 2006		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 リアクションペーパー (20%) レポートと発表 (60%) 授業への参加度 (20%) 【評価基準】 研究と分析 (文章と口頭発表) を通して、歴史について各自熟考する。 【課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法】		
備考 / Notes	【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】 【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】		

授業科目名 / Course title	フランス文化史研究B		
担当教員 / Instructor	佐藤 クリスチーナ		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 後期 / Aut.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	Histoire de l'Europe et de la construction européenne de 1945 au début du 21e siècle ヨーロッパとヨーロッパ創設の歴史 (1945年~21世紀初頭まで)		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	Le cours a pour objectif de réfléchir sur l'identité, l'histoire, la géographie de l'Europe ainsi que sur l'histoire de l'idée européenne. Comment une Europe détruite, dominée et divisée à partir de 1945 a-t-elle pu se construire et devenir l'Union européenne ?		
授業概要 / Course description	Les grands thèmes abordés : 学習する主なテーマ : ① L'Europe : son histoire, sa géographie et sa culture ヨーロッパ: 歴史、地理、文化 ② Histoire de l'idée européenne et des fondateurs de l'Europe ヨーロッパ思想と創設者の歴史 ③ Histoire de la construction européenne : ses réussites et ses échecs ヨーロッパの創設の歴史: 栄光と失敗		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	第1回: La géographie et l'histoire de l'Europe 第2回: L'identité et la culture européennes 第3回: L'histoire de l'idée européenne 第4回: 1945 : une Europe détruite 第5回: Le règlement de la paix en Europe 第6回: Les débuts de la construction européenne (1945-1954) 第7回: De l'Europe des Six à l'Europe des Douze 第8回: L'échec d'une armée européenne (1951-1954) 第9回: Les fondateurs de l'Europe 第10回: la relance du projet européen (1955-1974) 第11回: Les incertitudes européennes (1974-1991) 第12回: La construction européenne et les relations franco-allemandes 第13回: L'idée européenne depuis 1945 第14回: La construction européenne et la guerre froide 第15回: Exposé des étudiantes sur un thème choisi		
準備学習・履修上の注意 / Notices	講義は関係資料と映画を教材とし、フランス語で行います。 最後には学生による研究発表を行います。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 なし 【参考書】 Histoire de l'Europe (Ecrit par douze historiens européens), Hachette, 1994 Histoire/Geschichte, L'Europe et le monde de 1945 à nos jours, Klett/Nathan, 2006 Histoire T, L, ES, Hatier, 2004		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 リアクションペーパー、レポートと発表: 60% 授業への参加度 : 40% 【評価基準】 研究と分析 (文章と口頭発表) を通して、歴史について各自熟考する。		
備考 / Notes	【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【グループワークを取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】 【フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている】		

授業科目名 / Course title	フランス文化史研究G		
担当教員 / Instructor	二村 淳子		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 前期 / Spr.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	芸術としての飲料		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>フィリップ・シルヴェストル・デュフル (Philippe Sylvestre Dufour) の『新奇なるコーヒー、茶、チョコレートに関する概論 (Traitez nouveaux et curieux du café, du thé et du chocolate) 』 (初版1685年)。</p> <p>リヨンの富豪・人文学者であったフィリップ・シルヴェストル・デュフルは、当時、西洋にやってきたばかりの飲料の中に独自のコスモロジーを見出しました。この書は、今でも、コーヒー、お茶、ショコラに関する最も重要かつ最も内容豊富な基礎資料と位置付けられています。授業では、この本を原書のフランス語で読みます。非西洋圏での飲用史・伝説、植物特性、医学的効用などが綴られています。17世紀のフランス知識人の記述を通して、薬と飲料の境界、Artと医学、生活と芸術などの密接な関係をふまえ、フランスがどのように「飲料」を生活・芸術に取り入れ、いかに表象してきたのかを学び、人文的見地から飲食を考察・分析する方法や視点を獲得していきます。</p> <p>この科目は、「学生が修了時に身につけておくべき能力=教育目標、学修・研究目標」の、「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること」と「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと」に対応しています。</p>		
授業概要 / Course description	指定の文献を輪読します(昔の書籍なので少しつづり字が異なる箇所がありますが、比較的読みやすいところを選びつつ読んでいきます)。担当箇所を訳をつけ、コメントをしてもらいます。その後、全員で討議を行ないます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	第1回：オリエンテーション 第2回：café 第3回：café 第4回：café 第5回：café 第6回：café 第7回：café 第8回：café 第9回：café 第10回：thé 第11回：thé 第12回：thé 第13回：thé 第14回：thé 第15回：前期のまとめとふりかえり		
準備学習・履修上の注意 / Notices	発表のためには、自主的に資料を集めて積極的に授業に参加することが求められます。各回の授業外学習時間には2時間程度かかると想定されます。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 Traitez nouveaux et curieux du café, du thé et du chocolate, 1693年版をコピーして配布します。 【参考書】 ウィリアム・ユーカーズ『ALL ABOUT COFFEE』山内秀文訳、角川ソフィア文庫、2017年。 岡倉覚三『茶の本』		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 授業中の訳読やコメントが50%、期末レポート50パーセント。 【評価基準】 1) テキストのフランス語を正確に読もうと努力したかどうか。 2) コメントが「感想」ではなく、自分の分析や意見が加わっているか。 レポートにおいては、正しく明晰な日本語で論理的に書かれているかも基準とします。 【課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法】 レポートはコメントを付して返却。		
備考 / Notes	【討議 (ディスカッション、ディベート) を取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】		

授業科目名 / Course title	フランス文化史研究H		
担当教員 / Instructor	二村 淳子		
授業科目区分 / Category	修士 フランス語フランス文学専攻専門科目	授業形態 / Type of class	演習
開講期限 / Period	2022年度 後期 / Aut.	対象所属 / Eligible Faculty	
対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年	単位数 / Credits	2単位
副題 / SubTitle	芸術としての飲料 ②		
授業のねらいと達成目標 / Course Objectives	<p>フィリップ・シルヴェストル・デュフル (Philippe Sylvestre Dufour) の『新奇なるコーヒー、茶、チョコレートに関する概論 (Traitez nouveaux et curieux du café, du thé et du chocolate) 』 (初版1685年)。</p> <p>リヨンの富豪・人文学者であったフィリップ・シルヴェストル・デュフルは、当時、西洋にやってきたばかりの飲料の中に独自のコスモロジーを見出しました。この書は、今でも、コーヒー、お茶、ショコラに関する最も重要かつ最も内容豊富な基礎資料と位置付けられています。授業では、この本を原書のフランス語で読みます。非西洋圏での飲用史・伝説、植物特性、医学的効用などが綴られています。17世紀のフランス知識人の記述を通して、薬と飲料の境界、Artと医学、生活と芸術などの密接な関係をふまえ、フランスがどのように「飲料」を生活・芸術に取り入れ、いかに表象してきたのかを学び、人文的見地から飲食を考察・分析する方法や視点を獲得していきます。</p> <p>この科目は、「学生が修了時に身につけておくべき能力=教育目標、学修・研究目標」の、「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること」と「フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと」に対応しています。</p>		
授業概要 / Course description	指定の文献を輪読します(昔の書籍なので少しづつ字が異なる箇所がありますが、比較的読みやすいところを選びつつ読んでいきます)。担当箇所を訳をつけ、コメントをしてもらいます。その後、全員で討議を行ないます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	第1回 : thé 第2回 : thé 第3回 : chocolat 第4回 : chocolat 第5回 : chocolat 第6回 : chocolat 第7回 : chocolat 第8回 : chocolat 第9回 : chocolat 第10回 : 学生の発表 第11回 : 学生の発表 第12回 : 学生の発表 第13回 : 学生の発表 第14回 : 学生の発表 第15回 : 後期振り返り		
準備学習・履修上の注意 / Notices	発表のためには、自主的に資料を集めて積極的に授業に参加することが求められます。各回の授業外学習時間には2時間程度かかると想定されます。		
教科書・参考書等 / Textbooks	【教科書】 Traitez nouveaux et curieux du café, du thé et du chocolate, 1693年版をコピーして配布します。 【参考書】 ウィリアム・ユーカーズ『ALL ABOUT COFFEE』山内秀文訳、角川ソフィア文庫、2017年。 岡倉覚三『茶の本』		
成績評価の方法 / Evaluation	【評価方法】 授業中の訳読やコメントが50%、期末レポート50パーセント。 【評価基準】 1) テクストのフランス語を正確に読もうと努力したかどうか。 2) コメントが「感想」ではなく、自分の分析や意見が加わっているか。 レポートにおいては、正しく明晰な日本語で論理的に書かれているかも基準とします。 【課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法】 レポートはコメントを付して返却。		
備考 / Notes	【討議 (ディスカッション、ダイバート) を取り入れている】 【発表 (プレゼンテーション) を取り入れている】		